

令和6年度 椎葉村立尾向小学校 自己評価・学校関係者評価書

4段階評価 【 4：大変よく取り組んでいる 3：よく取り組んでいる 2：少し改善が必要 1：改善を要する 】

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果の考察及び今後の方策	自己評価	学校運営協議会委員評価	学校運営協議会委員評価コメント
1 学力の向上	① 子どもたちにとって学力が身に付く分かりやすい授業を行っている。	○ 算数科を中心に県が推進する「ひなたの学び」を意識した複式指導の授業改善をテーマに主題研修に取り組んできた。授業に意欲的に取り組み、学び合いを通して活用力や思考力、表現力を向上させることに重点をおいた授業づくりを通じて、学習への取組や学びに向う姿に良い変容が見られる。文章問題や文章で記述して解答する問題など思考力や粘り強さが求められる問題に対応する学力をさらに向上させる必要がある	3.4	3.7	・複式の経験がある。子どもの頃は感じてなかったが、先生方が慌ただしく授業をしている印象を受けた。内容も今の方が難しくなっているだろうし、先生方は大変だと感じた。複式が解消されるとよい。 ・参観する度に分かりやすい授業をしていると思う。 ・授業で、子どもたちの思考力を十分に引き出す授業をしている。
	② 子どもたちの基礎的な計算力や漢字の習得、音読の力は身に付いてきている。	○ 授業の中で、漢字テストや音読の時間を設定したり、朝の「まなび」の時間に授業の補充的な学習を取り入れたりするなど、内容の理解を深め、基礎的・基本的な学習の定着を図る取組を進めており、単元テストの結果においても一定の成果を得ている。学年によって個人差が大きい実態があり、個人差に応じた指導については引き続き工夫していく必要がある。	2.8	3.2	
	③ ICT機器(タブレット等)の活用やリモート授業などは、子どもたちの学力やコミュニケーション力の向上につながってきている。	○ 昨年に引き続き年間を通じて、1・2年と3・4年は道徳、5・6年は道徳と社会において不土野小とリモート授業を行ってきた。この取組も3年目となり、児童同士に、一緒に学習することが特別ではなく通常という意識が育まれており、機器の活用力や他校の友達と考えを交わしながら学習を進めるコミュニケーション力の向上につながっている。	3.1	3.7	・他校との意見を出し合いながらの学習はコミュニケーションが取れていい。
	④ 子どもたちの学習中の姿勢や準備物などについての指導を通して、学びに向かう態度が育っている。	○ 集会や行事を通して、聞く姿勢は全体的に身に付いてきている。学習中の姿勢については、場面を逃さない継続的な指導が必要である。身の回りの整理整頓や休み時間の過ごし方からも学びに向う態度育成に向けたはたらきかけをする必要がある。	2.5	3.3	・学習中の姿勢がよくできていると思う。
	⑤ 家庭学習の課題の与え方は適切で、子どもたちは毎日欠かさず取り組んでいる。	○ 各学年、児童の負担過重にならないよう宿題の量や中身を調整している。全体的に、宿題への取組や提出について習慣化は図られているが、課題意識をもち粘り強く丁寧に取り組む姿勢をさらに育てていきたい。	3.0	3.3	・出合った先生で子どもの努力が変わる。低学年程その時、その時で決まってくる。 ・放課後で宿題を済ませているが帰宅してからの勉強はしているのだろうか。
2 心の教育の充実	⑥ 子どもたちはボランティア活動等を通して「貢献」の力が身に付いてきている。	○ 中学年以上の児童を中心に、朝ボランティアや集会の準備・片付けに取り組んでいる。学校全体に目を向け必要感をもって活動し『貢献』する喜びが実感できるように、褒めたり感謝したりするはたらきかけを行うなどの工夫も必要である。	2.9	3.5	
	⑦ 子どもたちの学級の雰囲気は明るく、楽しそうに過ごしている。(学級の中にいじめの兆候は見られない)	○ 毎月の心のアンケート実施と、結果報告や全体協議の場の設定、教育相談週間の位置付けなど、児童一人ひとりに寄り添い、いじめの早期発見早期解決に向け迅速な対応をとる体制を構築している。また、保護者との情報交換も必要に応じて積極的に行い、家庭と連携して児童を見守る体制づくりを進めている。	3.1	3.3	・見るからに仲良く元気に過ごしている。 焼畠体験学習では保護者、先生、子どもたちが協力しすばらしい活動ができている。
	⑧ 焼畠体験学習やみどりの少年団活動は子どもたちの心の教育にもつながっている。	○ 焼畠体験学習を中心に、年間を通してさまざまな体験学習や活動を計画的に実施している。この豊かな体験が、周りの人への感謝の気持ちや、地域の伝統を守り受け継いでいく大切さについての理解や思いを深めることにつながっている。	3.3	3.8	・地域の人は大丈夫だが、教員の方は苦になつていなかろうか。・上級生が下級生の指導をする様子に安心した。ずっと続いてほしい。・少ない人数の中、体験学習等よく取り組んでいる。

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果の考察及び今後の方策	自己評価	学校運営協議会委員評価	学校運営協議会委員評価コメント
3 健康・安全の充実	⑨ 体育の授業や朝の体力づくり、体育的行事等による指導により、子どもたちの運動量は確保され、体力向上につながっている。	○ 今年度も、体育の授業をランニングやサーキットトレーニングから始める共通実践に継続して取り組んだ。業前の「からだ」の時間も週2回(1回15分)設定して多様な動きを高める運動を中心に取り組んできた。また、運動会や持久走大会、なわとび発表会など、年間を通じて継続的に、目標をもって運動に親しむ機会を計画した。昼休みも、全校で遊んだり教員も一緒に遊んだりして外遊びを奨励した。学校全体で体力向上に資する取組を進めてきた結果、年間を通して病気欠席の児童も少なく、児童の体力向上が図られている。	3.1	3.4	・水泳、運動会等で一生懸命に頑張っている姿に感動する。 ・学校外ではあるが、地域行事の時など昔(10~20年)よりかは、子どもたちが外で遊ばない印象が強い。時代の流れもあると思うが、これから先の子どもたちの体力低下が不安。 ・尾向の子どもたちは、お父さんたちもだが、村内では特に体力があると思う。
	⑩ 定期健康診断の結果などが速やかに伝達され、保健や食育に関する便り等の情報提供により、むし歯等の治療や改善につながっている。	○ 検診結果については、終了後速やかに家庭に知らせるように、今年度も迅速な対応を心がけた。歯磨き指導については、委員会活動を中心に児童が主体的に関われるよう活動を工夫した。保健だよりによる治療推進の啓発により、今年度も虫歯治療率は100%を達成した。 ○ 階段掲示板で児童の興味・関心を惹くように掲示物を工夫したり、季節や感染状況に応じて保健便りの内容を工夫したりするなど情報発信に努めてきた。健康や安全への関心を、日常生活の中で高められるように工夫している。	3.4	3.8	・階段の掲示板には子どもたちが興味を示すように掲示してあり見るのが楽しくなる。
	⑪ いのちを守る学習、日常指導及び家庭との連携が、子どもたちの安全意識を高め、安全な行動やいのちを大切にする心情の育成につながっている。	○ 今年度も、地震・火災・不審者・その他の災害に対応するための避難訓練を計画し実施した。特に、11月に行った火災対応の避難訓練では、尾向消防団第11部の全面協力のもと、講話だけでなく、ポンプ車の操法訓練の見学、放水体験など、体験的な学びを通して、いのちを守る意識を高めるとともに、心情を育成するための効果的な取組とすることができた。	3.3	3.6	
4 家庭・地域との連携	⑫ 学校は、地域の特性を生かし、PTAと連携して、子どもたちのための教育活動を推進している。	○ 児童数の減少に伴う長子家庭の減少など、地域的な課題もある中、保護者や地域の方の強力なバックアップのおかげで、地域に根ざした尾向ならではの学習や体験活動が実現できており、故郷を愛する心情や、支えてくださる方への感謝の気持ちが児童の心に育まれている。	3.2	3.0	・学校あっての地域、地域あっての学校。 ・祭りや色々な行事で職員の方がPTAや地域の方と精一杯協力している姿は感動する。子どもたちは背中を見ている。
	⑬ 学校や学級は、ホームページや学校便り、学級通信等を通して、必要な情報を家庭に発信している。	○ 学校ホームページを通じて、学校の取組や児童の成長について積極的に発信している。1月末時点で閲覧者数は約170万人を超えており、学校だよりや学級通信も定期的に発行し、情報発信に努めることができた。	3.4	3.6	・ホームページを見られない人は、児童の様子や成長が分かるから学校だよりを楽しみにしている。 ・学校だよりをいただいているが、読みやすく、先の情報とかもわかりやすいので皆助かっている。
本年度の成果と次年度の方向性					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度は、算数科を中心に県全体で進めている「ひなたの学び」を複式指導に効果的に取り入れる授業改善に取り組んできた。コメントにもあるように、児童にとって分かりやすい授業、興味・関心を高め思考力を引き出す授業作りの道筋が見えてきた段階である。次年度も継続して研究に取り組み、授業改善を通して学力向上に迫る。 ○ ICTを活用し複数の学校をつないで学習することにより、発表や意見交換を通してコミュニケーション能力の向上を図るとともに、より多くの考え方や感じ方に触れながら学びを深める椎葉村ユニット学習という椎葉村ならではの取組も3年を経過した。実践を積み重ねてきたことで、児童や教師のコンピューターリテラシーが向上し、より効果的な活用が図られるようになってきている。 ○ 毎月の心のアンケート、全職員による情報交換、風通しの良い職場環境、家庭との連携等により、児童一人ひとりに寄り添う体制が構築できている。 ○ 今年度は、尾向消防団第11部の全面協力のもと実践的な避難訓練が実施できた。次年度も「いのちを守る学習」を効果的に位置付けていく。 ○ 焼畑体験学習を中心に、家庭や地域と一体となった取組を通じて、豊かな心の醸成、ふるさとを愛する心の育成が図られている。今後も、尾向小ならではの教育を大切に守り受け継ぎながら児童の健全育成に取り組んでいく。 					